光祝
恵園孫

特別
へ5
5517

特
門へ5
號5517
巻

宮城縣立圖書館

序

ものの人日を幸ひる月和ゑ人へ
幸かをおのゝ新たまたまーろ
芹子菜をうゑ命をとも求めるう
今二種のをうさんとしけれる
又知れる人さんかれへるると
はうて見るあるを折ふ

宮城縣立圖書館

始れるは古さを教師として
続て七種の式を考へて名
それゝ説明を述るなり　すべて
あらぬ

元文辛酉神七　陀山人述

鈴菓

色のうつさ府やきく菓子法こゝろ　文先

市の墓市と神ゝ　初霜庵　葉園

新のうまあるてをれ月のきけて　山市

きく一詠　方篤

きく一ろや伝家ものゝ鄙八先

駅の駒も出く　玄亀い　不園

毛氏と移て調市ゝ赤れさんて　冥由

子年

七種や子路も根芹よはひ　古子

二盃深うすれば酒の青解　茶園

義入を舞さんさくよ冠者さく　梨洞

子年

蒔新そばの茶ひや冬ごり　意好

ちれしの煙もおろし唐傘場　東園

菓とさらふ蕎よ初うり探されて　春雲

たこ角

浦潟うたこ角や稽新年　田竜

潮のさらも由こ元の新酒　茶園

駒馬も市場の高清うけて　巴洲

清白　五年流

清白よ梅のまつ繁し白鳥の日

ちる梅の　はよ言めく　葉園

春相ふて似ま出ふ新の長宗　圓一

舞鶴　　巴柱

華鬘吟ふ丹頂を高殿

親子の沛通る蒹葭　　素圃

お蔭ぢゝ地下の雛をうやうして　　竹風

[illegible]

方篤畫讃

詠方書伝

月花下の主ことし百のたと
こゆ〻しく幸い系図の
名をあふ書きの柿下うつ書ひ
一天皇名と詠うて

うつ尾修

元文元年

看経ちもやしふくるまのも
詠文森看月森よ詠の書元　茶園

ゑる七宿姫うつ京へ出うして　発仏
看人七ちとゑうあり　梅之
然計利之祖せてむよ　銅鑑　嘉二
拭うて探よ移れ初うす　荷田
文月の名よちりやよ月の新　陸巴
花の詠のて出の　ひあけ　菜室
ウ
盆うてやて仏陽の元　宿笠　里扑
果詠うやむ京初のうち　右岳

[illegible]　　秋濤

おもしろくとて鐘を撞きに　　嵐風

[illegible]　　[illegible]

入りのまに[illegible]　　琴波

[illegible]　　乙英

[illegible]　　[illegible]月

[illegible]の[illegible]　　義濃谷阜

[illegible]　　白話

[illegible]　　[illegible]

[illegible]　　[illegible]

[illegible]　　早禹

[illegible]　　[illegible]

[illegible]の滝　　東粛

[illegible]　　松宮

五月雨に濡れやすのむらの　逸美

雲は消ゆ空は白し梅の花　宇禹

あやまちて雲の柳を見る　帶吉

一さし一

俳諧は明日やすらんたのむ　山縣東羽

あるまふ水をのまふ　呵考

雨雲の空を誘ひくれく　栗九

一さし二

雪ちらし稲はさくさく　そのね

ふる雪をふるさはらぬの唯　故洒

ひとり帰塚は二年の菜も近いて　不香

一さし三

鹿哉

慶のなきまやは読まるる

朝日出る雲は唯る趣　左戈

学ル五摂の高く帝うけて　分斗

五十句

きりはるよりはてはなしの五句

長良　有琴

[illegible]おさ海の[illegible]の眺望　汶可

金屏の[illegible]よ[illegible]ば[illegible]　呂杯

[illegible]

[illegible]の波や初よし　呂杯

十[illegible]の松も[illegible]の雲　汶可

[illegible]の[illegible]も[illegible]五十[illegible]川　仲志

五十句

[illegible]　大垣　半巻

[illegible]をとられて後餅

四[illegible]の[illegible]の[illegible]月　陸五

合歓の木は[illegible]生[illegible]ると[illegible]　東雲

[illegible]

十[illegible]の五[illegible]ふ[illegible]れ[illegible]松の[illegible]　魚六

七[illegible]は[illegible]いら[illegible]ま[illegible]　左什

[illegible]む[illegible]や[illegible]あけて[illegible]の[illegible]　陸五

服部氏を相手や取持　東雲
高砂の松ハ　惟一　五十雀　東象

あるを聞くもうるさくもあるて
実ハ五十ハ名れの中よりて
拾ひ上ゲるを求めいなまるを
らくふうん新の東風のぬこと
を数よりくれるうし青鷺の
ら場より高もれ俳句
あれい

餅酒のあや高砂の松　遠支
隠の間うぐいす鳴むらう
を撓とれさく折てゝ永き日ハ
五十雀　少方
花の名も酒ゝ蓋国の名うた外
伯家も歌こと　稽古遊業　雪伯
お家ま祝もうるゝ俳句て　返と

[illegible]

[illegible]川の仲[illegible]やまのむこう　延と

[illegible]ひ[illegible]ま[illegible]ゆ[illegible]や年[illegible]　呂柱

[illegible]れ[illegible]れ[illegible]れ[illegible]　[illegible]

大[illegible]ま[illegible]の[illegible]　菱的

初[illegible]ぬ[illegible]と[illegible]連　[illegible]流

尾張名古屋　[illegible]

[illegible]

[illegible]や[illegible]屋の[illegible]ま[illegible]　百雄

[illegible]荷[illegible]　[illegible]酒の[illegible]

[illegible]の[illegible]ま[illegible]を[illegible]ま[illegible]て　[illegible]

[illegible]

[illegible]の[illegible]の[illegible]や[illegible]の[illegible]　丁牧

[illegible]ま[illegible]の[illegible]ま[illegible]　柳士

[illegible]れ[illegible]の[illegible]を[illegible]て　[illegible]

菜園子のまゆ白のかすゝきの
花の穂をうゝぬく

こゝ一　　仝　夏旭

撫菜や月も赤らむ花のむ
霜の一言も白梅の穴　竹夜
梅屋のち湯主人傳れて　青江

こゝ二　　白松

松もそれ花芋の葉をあゝ
蛙のさそひ水眼の笠人　宇益
隈どりの穴ゝ市れる泥りて　織子

こゝ三　　宇益

市路芋川や花の橋菜の芽ゆ
松をゝ雪月を吟ずけの月　青江
ちとゝ永ん春の月柳北尾ゝ人て　夏旭

こと四

松しまのよるはいかにあしの原

玄江

掃除する侍ふ雑し　砂ゐ　俳子

其侍ふ門をあい新の鐘撞て　行夜

こと五

ぢをうまたの高ぢの茅ぢうふ

俳千

服濃ふちうふ茅ふを山　百松

佐渡の名い小清姫ゆ玉ぢ

宇益

こと六

ちれひまあやうれ松をたの夜

亦夜

茅ちをふ侍れくるもねる夜　豊明

ふ所行所月をおいかるまふ

百松

仝

行松と松ちやたの餐ふ坂

茅ふ松ふ山ふりをるを夜

新起の茅ふ茅の高をすりて

越の新ほ子園のうへ百の
まちを雲やちらすらん
ほとゝぎすのへりけれゝ

仝　及喬舎

天神ちらす髪やひの鐘餅

伊勢菜名　指之

一

宮ゐあれ一枝の紅葉や青のも
ぬるの香さしおさゆるを　柳史

雨菜ぬく籠の市月の鐘ちりて　八洲

二

雲の月日やうてやうて初び　帳十

梅もちろく咲て　子餅　一羽

香汁の脊戸ゐ鐘弾の指ける　李林

[illegible]

むらさきのあやめや月の坂　紫山
風はあれども秋やいとぬる所　柳史
夢ぬるこそいろふかし秋の色　右竹
[illegible]の[illegible]の[illegible]や百[illegible]　東柯
[illegible]の[illegible]やたをれの色　一羽
色の[illegible]やしぼみ[illegible]れて　李林
白[illegible]の[illegible]や初[illegible]　八調

[illegible]の紅[illegible]れ
[illegible]の[illegible]の[illegible]

あ[illegible]やよもの[illegible]　全　[illegible]
[illegible]て[illegible]を[illegible]作　杜[illegible]
松[illegible]て[illegible]　[illegible]
[illegible]や[illegible]の[illegible]　何有

[illegible]の[illegible]やおのく
五十の[illegible]とむ[illegible]

春ふかしもやさく深めるる
ふを祝して

四日市

勤て年の海流やたの五十川　宗之
沖の寄る年も流れ五十鈴川　素石
五十丁の梅ト咲れり　素考

玉園よの五十の
ゆくしを繋して　津
梅ゑ折ふ月をうるも竹の中　素士

眼鏡

かかえやさ
羊腸

初春眼鏡もいつまて二ん形
詩る童会ふて　せ戸の角文字
春入を迎ひの馬も鈴張て

梅姫

若推

学ゆ竹と立ハめて拾りめ
折ゝ嫁とすう新ゝ立の川永
傾城ゝ正月揚よ傘さして

花

武蔵おの〳〵編　浮涯

ふるさとの清水　伝風

ものよ星とよれまふり

結国の雨とけまるちらく　小須

よ年ヲ良芸宿　長岡　蘭亭

年〳〵やまと書屋せしたてこ苗

孫よあく〳〵さむしたのまこ永　美平

雛よ見ぬおよ酔〳〵ら餅出て　宮巾

馬越柿　くれ板　吉弓

ゆきてもひらはゆめをやもの之

梅さく〳〵は他のそよをふ立

沖新信の沖ものとあしをとと　はけて

ふ子宋　雲生津

をの勝伸てふやく橘子宋ふ　一方

ものよをさの雨ふくし　二方

ゆく童信よまの新をて　柳下　一宇

大深新

[illegible]　[illegible]
[illegible]　志風

[illegible]の試しホの[illegible]　市　一水

永[illegible]の錦[illegible]永の[illegible]れて　星風

生[illegible]

新發田　洋虹

[illegible]

[illegible]　巴陵

月星のうひそよはしを[illegible]　柳星

生[illegible]巖

新津　山竹

[illegible]

[illegible]　壽不

田螺あく[illegible]毋[illegible]吟さぬ[illegible]て　文苔

白滝

村上　知楽

[illegible]

[illegible]　芝紅

[illegible]　風柳

黒川　巻二

雅亭

雅のよる日月永し一雅亭

杜を見越す梅の芽　心仙

馬よ梅鶯ちと泣よりまめさて　東下

羽引　羽引

ある羽　凡竹

出羽ちうんせいやゝ寒れ寒けめ

きあけの杜　ゆを莚茅　北面

子金のまと寒を引寒く　芦雖

江戸出

武州江戸　郁居

ちゝ寒ある河へ清や　杜よ寒

京級　京の曲も永き日

九山の梅進よ新も梅りやし

月花をのゝしり詠ぜられたる
名所多き景所多き所の名をあ
げ遠くの書伝よりはじめ此
の面白きふる事ゝ作の
詠と作て謝恩奉るべき
ものなれば此ふん奉るも
ものゝ本意なくしていたゞき
主野給を書くのこ

春之人

ゆ代の坂越れも松よりさり弁
詠ゆく宮ま　宣　月花

追加

松を植く　孫ふあるふ義ふ　如雀

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

西五

月和[illegible]

[illegible]

伊夜日子奉納

梅の句帖

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

りんのの日野殿のおん荘を寄
進をはこぶ一けんの新式をさと
ものよ所よりの清酒を備へ
箕よ白梅の清きをはこぶ出雲の
和のと別連中もあつて三千余家
廟堂下の蔵俵を調へ奏へと
利者うつてうえこたの一社と
設くされやとのとりひ千百類と

いひ二名二式のあるおあれこそ
はるく又者い情新をうけ者よ
さ一はうてさらい小宮の竹の新
せ〻南宮の拾よそむ　神新
はさようはうまそしておのく
ねれの庵をひけに名よあよ
二ん形の杜の新凡よ訊これ多
はさ古一心ふく　凡新　北

寫真を作こさせまるなり

享保乙卯仲春日　　黄鶴楼主

永之坊白

二十一

梅の一ーとうさい神のしるし　　永之坊

ちりぬるいをうけ伝る　　遊亦園

俤ゆまハ次者高の神ル表をけて　　梅窓

門傳家セテ一家なる　　泰翼

家名さく角を用ひて君極る　　宣由

設拝て門市の場合　　百程

月の影もあるかなきかの雲間より照渡る　之雨

秋あけ行ふ山ぢより八月　雲竜

いき二

雲晴て池のあなたやむめ花　四桂

由うちの雨ぐもさえ寒く　東風

切れの水すまして菊を植ふ　い巻

濁りなくあるうとたふうう　京牧

流れの緑ちらちらやぬ侍る　田三竜

計よのそうよりもうれむく　園一

おもふ〳〵の月は行ひ　雲二

ちらちらぬ馬も移り　子保

いき三

月は二ちらちらやぬ　侍凡

子規人の神はよもく　柳の花

袖垣　東雨

鉢貧の唐人笛よ時 秋水亭 流年

百よ一年の秋を 雲枝

雪ふる夜ふる故ふるれて行生ひ 巴千

ふるいの年ま高ふて 金華 華流

年のくれよ秋ふるふるふる 晒川 志風

冥相よふて ふる 橋 山市

橋ふ高や高世の秋ふ華笠の 竹風

ふれ水のよ時の 唐猿 ふ園

山下の降れ星ふ我ふるあけて 長園 南土加

月夜ふ世ふ我笠川 秋星

銭村の秋の月ふふ掃除 新田 移仙

月ふ池ふ月ふたふ 巴洲

時ふ春ふしふ月 雲庭

庵ふ村ふ一時ふ月 右笑

二十五

梅の香や水の湯桶とさきい会　姥流

うぐいすの花さそふ風の落ち川　如圓

川向こう柳ばかりをあやつりて　新蓋田　洋虹

お城よりあいぬうちの飯鐘　与板　去留

蛍をきしく猫もうやけを語て　泰雲

大地よりあいぬ初もふん　りく　之由

おもしろ仏の月もなるる　立泉　梅の

ちりぬる柳の朝ちと寒あり　丈先

二十六

四季の花ありて梅のひ

姿を富の蔵のうちあ　如圓

多金の三月よ国芳つく　雲枝

梅うぐいすの　ふの　庁一　志圓

仮ゆるの事法まれるよたこ盗　園一

ね御を逸てそうとりの汗　田竜

笠のなかもはよてそうて墨古鞠　京好

席下はたりの　板倉殿　信凡

二十七

巳卅

郭紀いろ領行て玉兎のひ

庄司う鍍の作さる　葉園

明和よ山独活の芽をあらて　多孫

れふみそうん雨の孫さ　三三

経汗の孫へ金ふの孫さう　十孫

芽ふても赤竹てし垣の菓　南知

新ふそうさうて孫さるの月　詩象（かせ）

明の相景を行てうり紙　巳千

二十八

梅の香のよりや梅の面影を　[illegible]

[illegible]よ猫し行く月　[illegible]園

屋うつきのあひの舟うしく　去留

仏の鐘相寺なてまこく　雲庵

風さうけ花のあるを西の海　[illegible]田

月まちのてうてうけれ　村上　[illegible]来

うけて春の雲の雲れ　梅尾　[illegible]石

[illegible]猿も人の数よ豊あ　[illegible]西

十七

一ちの　文光

[illegible]の[illegible]を[illegible]梅の[illegible]

[illegible]の[illegible]笑よ[illegible]ちる　[illegible]園

西月の[illegible]二月よ[illegible]梅　幸流

細工[illegible]の[illegible]て　嘘　梅流　[illegible]言

時[illegible]ハ[illegible]の[illegible]　[illegible]田　桐星

[illegible]の[illegible]の[illegible]　[illegible]

十八

[illegible]の[illegible]と[illegible]る　百樓

[illegible]根[illegible]もの[illegible]れ[illegible]る　姑流

[illegible]十　秋之人

[illegible]も[illegible]を[illegible]の[illegible]

[illegible]破[illegible]　本[illegible]　葉圃

[illegible]れ[illegible]て　志園

[illegible]年の[illegible]の[illegible]　汴虹

[illegible]れ[illegible]　[illegible]

[illegible]れ[illegible]　竹風

[illegible]桃[illegible]月[illegible]入　黒川　[illegible]二

[illegible]の[illegible]　柳家

余興　[illegible]

葉圃

[illegible]の[illegible]の　白鶴

[illegible]の[illegible]　百柱

大名も寄れば小腹減て　百元

笑ひの氣は傳染る　百程

寒し　坊の住まようれてゐるの月　嘉定

寒氏　坊ん子　汁の杓出　倚風

京寺町二条下ル

橘屋清兵衛板